PASION 通信 11月号　　**挑　　戦**

三郷 Jr.YouthFCU12

C.F.PASION

～勝利の神は細部に宿る～

11 月は今年 1 番の新人戦がありました。全少が終わり新人戦まで時間がない中で、基礎を見直しゴールに勢いよく向かっていくことをやっていきました。これまでの前にパワーを持っていくのではなく、後ろから組み立てて、2 列目や 3 列目がどんどん出ていく全員攻撃を練習しました。真ん中でボールを失わないこと、真ん中からサイド攻撃を徹底的に練習し、新人戦に挑みました。1 回戦はスカウティング通りで相手には何もやらせることなく 4-0 と大勝。2 回戦は最強のライバルレジスタ FC でした。試合は拮抗し、どちらも得点チャンスがある中で決めきれず後半 AT で GK を PK が得意な GK に交代した瞬間、残り 15 秒で失点し敗れてしまいました。新人戦を通して気づいたのは、基礎の甘さ、強度の甘さでした。レジスタ FC 戦は蹴り合うゲームとなる中で浮き球の処理にミスが発生することが多く見られました。新人戦が終わってからは、基礎を徹底的に見直しボールを自由自在に操ることができるようドリブルのトレーニングを行っています。自分の膝下にボールを置き、間接視野でボールを見ることに特に留意し、トレーニングを行なっています。基礎は簡単そうに見えてすごく難しいものです。しかし、基礎はサッカーの土台であり、ピラミッドの土台がフラフラでは倒れてしまいます。基礎を見直し、止める・蹴る・運ぶ・観るということにこだわって今後もトレーニングをしていきます。

題にも提示した「勝利の神は細部に宿る」は、あるコーチが言っていた言葉です。今回の敗因はサッカー内はもちろんですが、私生活やオフ・ザ・ピッチにも関係のあることだと思っています移動がダラダラしていたり、最後の 1 歩を頑張れなかったりという細部が勝敗を分けたと思います。強いチームで礼儀がなっていないチームやだらしないチームは見たことがありません。そこで新人戦後から返事をしない時や移動がダラダラしている時には走るということを行なっています。今は意識的にやるので構いません。12 月に入り、少しずつ無意識に声を掛け合ってできるようになってきました。挨拶や礼儀、荷物など全てがサッカーに関わっています。サッカーのために何ができるのか、何をしなくてはならないのかを再認識しましょう。

12 月はドリブル全種。リフティング、ストレッチのテスト月間です。しなやかさを手に入れるために、さらに練習しましょう。保護者の皆様新人戦では熱い応援ありがとうございました。選手

たちは本当によく戦ってくれました。タラレバが残るゲームでしたが、今後やるべきことは明確です。「埼玉県チャンピオンになる」ということをコーチと選手で決めました。今後ともご支援、ご協力よろしくお願いいたします。（成田コーチ）

～追い求める～

11 月は天候にも恵まれ、沢山活動することができました。また宮本杯やトレーニングマッチなどゲームを多く組んでもらい、多くの課題と成長を見られることができたと思っています。9 月、10 月、11 月と結果が劇的に好転しているわけではありませんが、ゲームの内容は着実に向上していると思います。後ろから繋ぎながら相手を引き出し、空いたスペースをとり前進するというように選手の狙った形でボールを運ぶことができつつあります。しかし、まだ完璧ではありません。相手から強い圧力をかけられれば何でもないミスを連発しますし、相手を引き出して作ったゴール前のスペースにボールを送り、GK との 1 対 1 になっても FW のコントロールミスやシュートミスでチャンスを無駄にするのが何回も起こる隙だらけの集団です。そういった隙をチームで普段の練習から減らしていくというような姿勢がまだまだ少なく、もっと強く追求していかなければこの先も何度も同じような勝ちきれないゲームの繰り返しで冴えない結果を出すことになるでしょう。

また、隙だらけであるのはピッチ内だけではありません。練習前の準備の遅さ、挨拶、返事、荷物の置き方、上げ始めればキリがありません。強い集団はオンオフの切り替えがキチンとありますが、オフの過ごし方にも節度があります。PASION の選手コースがどのような集団であるかを決定するのはコーチではなく、選手自身です。選手たちが口だけが達者な人間でないのであれば、口にしている目標に見合った行動をしてくれることを期待しています。（松本コーチ）

Always be a Tortuga

常に亀であれ